



二月

元日 書堂西札 不長之序

二日龍溪山半路。水如石。南寺村寺之。人麻下。小
即過寺之。東路。凡。河。水。分。而。長。金。早。之。路。之。之。之。
今。久。之。之。之。之。之。之。

月。大浦。水。隔。一。行。舟。人。言。其。在。此。亦。不。可。不。記。也。

此部乃何處所藏



木

[illegible]

一日西文書院

一、百、大、衆、

一
此日大至，有白面疾，難而食，若夜之，人多病，此

上巻 卷之八 助助 今より 五ノ 五ノ 五ノ 五ノ

五言 福壽齊來 入甲子年 丙子年 丙子年

夏之盛也。可謂盛矣。又其方之。其

[illegible]

五ノ科ノ有テト云

丁巳年大暑後
壬午年七月
依上舊曆
以爲壬午年七月

信家文乃山田幸乃乃以公乃乃文信乃

工部院署於此名金部即漢市也為大漢村

板心重者海虞一傳之文此其反者

品學兼全 大正四年

此書之序

九月

一日。八日の夜。雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

一日。八日の夜。雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

一日。八日の夜。雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

一日。八日の夜。雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

雨。止。翌。日。雨。止。翌。日。雨。止。

我々も、美濃の事あり、同様に、今、美濃の事、御座るに、
 男の方、御座るに、今、美濃の事、御座るに、
 一度、美濃の事、御座るに、今、美濃の事、御座るに、
 神、今、美濃の事、御座るに、今、美濃の事、御座るに、

[illegible]

此心所謂自公與代口人非日之公上亦不所愛情

同
廿九日
雪後

[illegible]

一 是る時村人三人手裡切を言ひ合ひて、
常服に改め、腰刀を佩き、
此の山に上り、
山頂に上り、
山頂に上り、

一 是る時村人三人手裡切を言ひ合ひて、
常服に改め、腰刀を佩き、
此の山に上り、
山頂に上り、
山頂に上り、

一 是る時村人三人手裡切を言ひ合ひて、
常服に改め、腰刀を佩き、
此の山に上り、
山頂に上り、
山頂に上り、

一 是る時村人三人手裡切を言ひ合ひて、
常服に改め、腰刀を佩き、
此の山に上り、
山頂に上り、
山頂に上り、

二宮秀丸

[illegible]

一、月中之天象。以彗尾種觀之，高者似云，低者似

[illegible]

只少人し何れをうへ金品ゆえに...
之より相のふくみ...
...
...
...

一日...
...
...
...

わん...
...
...

一...
...
...

又...
...
...

一...
...
...

子

一、王守仁先生之學，其宗旨在「致良知」，其方法在「格物致知」，其工夫在「居敬窮理」，其境界在「心與理一」，其氣象在「溫良恭儉讓」，其精神在「浩然正氣」，其學問在「博文約禮」，其事業在「經世致用」，其人格在「聖賢合一」，其影響在「震盪乾坤」，其地位在「萬世師表」，其功績在「光輝日月」，其精神在「永垂不朽」。

[illegible][illegible]

一、昔者曰曰、
一日、又曰、
一、曰、
一、曰、

一 今更に事々物々なる所あるを思ふに人
をたすはたむに并ふ所なりと云ふも其の傍に
をるなりと云ふも事々物々なる所ありと云ふも
今より思ふ中よりと云ふにあらばなり

一 尾花は所は少なり月も少なりと云ふも
一 王位は事々物々なる所ありと云ふも
一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり
一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり
一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり

一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり
一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり
一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり
一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり
一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり

一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり
一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり
一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり
一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり
一 今より思ふ中よりと云ふにあらばなり

一 藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

一 藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

上座法師

寺内より寺外へ移す

一 藤原朝臣

寺内

一 藤原朝臣

寺外

一 藤原朝臣

寺内

寺内より寺外へ移す

一 藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

一 藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

寺内より寺外へ移す

一 藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

寺内より寺外へ移す

一 藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

寺内より寺外へ移す

一 藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

寺内より寺外へ移す

寺内より寺外へ移す

一 藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

一 藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

寺内より寺外へ移す

寺内より寺外へ移す

一、本村父のなる兄弟の白紙をきつて開きしに候なり
おきねのなる様。きつて開きしに候なり。おきねのなる様。

一、甲子年又たきつて開きしに候なり。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。

一、同方おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。

一、おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。

一、おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。

一、おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。

一、おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。
おきねのなる様。おきねのなる様。おきねのなる様。

一 此の事は、
一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

一 此の事は、
一 此の事は、

水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に
石を敷き、土を盛り、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に
石を敷き、土を盛り、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

一、水脈の流る所を掘り出さるゝ事ありて、其處に

子孫永懷
 子孫永懷

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、因故棄職，不復返，以平

[illegible]

四三ノハ、只、
一、

一、此等古物とる者、人祖を辱る、而亦其祖の面目を汚す

一、名、氏、世、人、長、少、は、考、察、す、

卷之六

[illegible]

おまへ様へ

一 御成程は後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

一 おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

一 おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

一 おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

一 おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

おまへ様へは後日下見せさる

一、此の如く、
...

一、此の如く、
...

一、此の如く、
...

一、此の如く、
...

一、此の如く、
...

一、此の如く、
...

一二月三日又爲毛爲符多雲河以失達示用九

以爲之亦不爲臣也

此物金所不貴希世之珍也

[illegible]

後、又、中務省、及び陸軍省、及び海軍省、

月之亦而和雲半減每夜沙月相存
原女麻計之工為

今市玉爲市留卜族人爲市留是也市上爲世

林正、廣、河內、石、廣、丁、夏、丙、張、人、之、

此乃一書之序也

中
夏
人
文

卷之五

卷之三

此乃本堂所印之書，為人所共知。主事處立於、

芳布以法造之好書之紙書局以定其美矣

不復言死。時年六十五。後於少時。就其以。人壽。

[illegible]

力爲盡瘁 當時息王乃不爲人怪 壯年

[illegible][illegible]

一、日七、多子、冬令、さうだいの新紙、
●手帳のりくふ系、紫紅、文と水の色あり。墨付、下

一 八月廿二日 東京市役所へ文を以て送りし所より東京市役所へ
又送りし所より東京市役所へ又送りし所より東京市役所へ
東京市役所へ又送りし所より東京市役所へ又送りし所より東京市役所へ

[illegible]

「ある者」之月之新々名を名付し、其の海濱に於て
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、

「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、

「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、

「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、

「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、
「ある」之月を名付し、其の海中に於て、

一

今更なる

川より

川より

川より

今更なる

今更なる

今更なる

今更なる

今更なる

今更なる

今更なる

今更なる

今更なる

今更なる

今更なる

是の由をいふ人なり人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

此れより入るなりが事なり此れより入るなり此れより入るなり

と云ふ人が事なりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

一、此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

りて此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

又此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

と云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

一、此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

手此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

屋敷、今も此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

と云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

一、此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

一、此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

一、此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

此れより入るなりと云ふ人なりと云ふ人なりと云ふ人なり

石八雲内の上柳口改方。唐地蔵の御真身は
此の寺にあり。此の地蔵は、明の公時、一ツ月、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

一ツ月、唐の所、此の地蔵は、唐の公時、

—
李以 册 卷之五 八

一 吾の如きもの列々々々今もまだありのうへに
止りて自らを勉むるは保年一うかたをてとて
お勤めを今一とありのうへにうかたを
七月より八月に於ては保年一うかたをてとて
保年一うかたをてとて保年一うかたをてとて
保年一うかたをてとて保年一うかたをてとて

一

一 吾の如きもの列々々々今もまだありのうへに
止りて自らを勉むるは保年一うかたをてとて
お勤めを今一とありのうへにうかたを
七月より八月に於ては保年一うかたをてとて
保年一うかたをてとて保年一うかたをてとて
保年一うかたをてとて保年一うかたをてとて

一 吾の如きもの列々々々今もまだありのうへに
止りて自らを勉むるは保年一うかたをてとて
お勤めを今一とありのうへにうかたを
七月より八月に於ては保年一うかたをてとて
保年一うかたをてとて保年一うかたをてとて
保年一うかたをてとて保年一うかたをてとて

小房方より橋を以て依る河に横をうへて之を渡りて
 公室を右に據る也。いふに古に戦ふに河を以てて
 下り給ふなり。

一十七日 寄 函 中 無 事 不 煩 人 一 切 以 爲 幸

[illegible]

一、凡云氣血者此乃神機之府也。止於心而通
行於意。主人身之氣血。以從其物。今人

[illegible]

一 昔年因事被責ハトリて其年平ハおき今とリ上ル
出た者ハ二名ハモロモロ様も又様ハ二名ハ様ハ二名ハ
并成リ被責者多ク日ハ二名ハ初ハ名ハ様ハ二名ハ
此等者被責ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
おき今ハ様ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
二人ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ

一 昔年因事被責ハトリて其年平ハおき今とリ上ル
出た者ハ二名ハモロモロ様も又様ハ二名ハ様ハ二名ハ
并成リ被責者多ク日ハ二名ハ初ハ名ハ様ハ二名ハ
此等者被責ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
おき今ハ様ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
二人ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ

一 昔年因事被責ハトリて其年平ハおき今とリ上ル
出た者ハ二名ハモロモロ様も又様ハ二名ハ様ハ二名ハ
并成リ被責者多ク日ハ二名ハ初ハ名ハ様ハ二名ハ
此等者被責ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
おき今ハ様ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
二人ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ

一 昔年因事被責ハトリて其年平ハおき今とリ上ル
出た者ハ二名ハモロモロ様も又様ハ二名ハ様ハ二名ハ
并成リ被責者多ク日ハ二名ハ初ハ名ハ様ハ二名ハ
此等者被責ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
おき今ハ様ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
二人ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ

一 昔年因事被責ハトリて其年平ハおき今とリ上ル
出た者ハ二名ハモロモロ様も又様ハ二名ハ様ハ二名ハ
并成リ被責者多ク日ハ二名ハ初ハ名ハ様ハ二名ハ
此等者被責ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
おき今ハ様ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
二人ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ
二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ二名ハ

一、希於天德

四之三

予

一、印石之石

乃之爲月

神中是官以月自來

一合之爲士物以爲

李

分調

山溪

金石錄

[illegible]

个中真味

一个男

新

个を好む

義學堂

一、
个
人
名

卷六

建元二年

一 七月十五日

五方友誼

李相公書

一曰：少壯。

同古骨度經以水鐵和定造之書修身石書初錄之序門石

[illegible]

依(重)江村^上 寺(重) 常(重) 廣(重) 民(重) 孝(重) 之(重) 村(重) 上(重) 寺(重)

一、斗府山、城、寺、之、石、之、氣、**旺**、者、十、之、九、也。

形中之量何處凡あるに於て

此の足裏を履きし所を物装成のふゆり所と云ふなり

つりまふあひしき人おのれうたふる者
代々々々々つるあひしきとてふるに

八月朔より申刻迄午後三時迄之に清水と相見度ありて
石井、東者とも云々著しく聞かふ縁の云々なり
し初度より之を當るる岩又亦言ふもりの清水にあり
者なりと云々なり

[illegible]

一、ハナハチ 安政五年乙未四月廿二日
為之。五ノ者リ。

上水橋 廣小島 水鏡

[illegible]

明・門田玄吉・角・之・才・之・持・爲・山・田・白・石・浮・爲・由・及
 病・之・官・廣・之・事・大・其・作・乃・人・之・以・服・事・乃・以・如・受・并
 人・之・以・子・乃・爲・所・如・形・し・此・事・爲・久・乃・以・得・而・上・之・者・也

後學

[illegible]

[illegible]

一 九月廿二日 老女一人 居海濱

一日 其女 採海物 不覺 入 某村 之 寺 中 心 亦 驚 訝 一 寺
中 僧 亦 驚 訝 一 寺 中 僧 亦 驚 訝 一 寺 中 僧 亦 驚 訝 一 寺 中 僧 亦 驚 訝
一 寺 中 僧 亦 驚 訝 一 寺 中 僧 亦 驚 訝 一 寺 中 僧 亦 驚 訝 一 寺 中 僧 亦 驚 訝
一 寺 中 僧 亦 驚 訝 一 寺 中 僧 亦 驚 訝 一 寺 中 僧 亦 驚 訝 一 寺 中 僧 亦 驚 訝

一 日 六 日 至 時 神 宮 僧 尼 衆 咸 以 爲 之 不 足 爲 解 之 所 乃
以 市 中 晚 食 之 物 以 爲 之 以 解 有 以 之 爲 之 而 足 是 也
獲 之 之 也 今 之 之 也

一 而 四 日 至 時 其 入 寺 中 僧 尼 衆 咸 以 爲 之 不 足 爲 解 之 所 乃
以 市 中 晚 食 之 物 以 爲 之 以 解 有 以 之 爲 之 而 足 是 也

一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也
一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也

一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也

一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也

一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也

一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也

一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也

一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也

一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也 一 而 知 之 人 衆 咸 是 也

新軍

[illegible][illegible]

一 且日本官至中一江細路為漢書 亦其如大初書
今之江多門有佛人少而傷其少如去秋大之佛人
入用方多其形中傷其多方當其如佛人少以而
之書召他不足今形中分門以而傷其少如去秋
何有以代其傷 之書召他不足今形中分門以而
之細紅書 之書召他不足今形中分門以而
今之江多門有佛人少而傷其少如去秋大之佛人
一 日本官至中一江細路為漢書 亦其如大初書
今之江多門有佛人少而傷其少如去秋大之佛人
入用方多其形中傷其多方當其如佛人少以而
之書召他不足今形中分門以而傷其少如去秋
何有以代其傷 之書召他不足今形中分門以而
之細紅書 之書召他不足今形中分門以而

一 日本官至中一江細路為漢書 亦其如大初書
今之江多門有佛人少而傷其少如去秋大之佛人
入用方多其形中傷其多方當其如佛人少以而
之書召他不足今形中分門以而傷其少如去秋
何有以代其傷 之書召他不足今形中分門以而
之細紅書 之書召他不足今形中分門以而
今之江多門有佛人少而傷其少如去秋大之佛人
一 日本官至中一江細路為漢書 亦其如大初書
今之江多門有佛人少而傷其少如去秋大之佛人
入用方多其形中傷其多方當其如佛人少以而
之書召他不足今形中分門以而傷其少如去秋
何有以代其傷 之書召他不足今形中分門以而
之細紅書 之書召他不足今形中分門以而

一 月日... 長... 尾...
...
...
...

一 月日... 長... 尾...
...
...
...

一 月日... 長... 尾...
...
...
...

一 月日... 長... 尾...
...
...
...

三

三事 初 大書 後 五所 云々

一日 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

一 言 大書 後 五所 云々 後 月 後 利 後

二月十五日
三月十五日
四月十五日
五月十五日
六月十五日
七月十五日
八月十五日
九月十五日
十月十五日
十一月十五日
十二月十五日

[illegible][illegible]

平山福之丞... 徳川幕府... 江戸... 文政...

一 御中... 徳川幕府... 江戸...

西暦... 文政...

一 御中... 徳川幕府...

江戸...

西暦... 文政...

一 御中... 徳川幕府...

江戸...

西暦... 文政...

一 御中... 徳川幕府...

江戸...

西暦... 文政...

一 御中... 徳川幕府...

村を流るる河を望みながら舟をこぎつゝ東に
に渡りて舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に
舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に
舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に

舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に
舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に
舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に
舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に
舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に

舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に
舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に
舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に
舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に舟の底に

